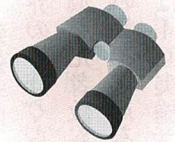


ノーベル賞学者の言葉

不都合な真実を直視する



本年度のノーベル賞受賞者の

ひとりにアメリカに研究拠点を
持つ米国籍の真鍋淑郎まなべ しゅくろうさんが選
ばれた。気候変動予測モデル開
発の受賞は、世界の未来に関わ
る課題への高い評価によるもの
だろう。その記者会見における
発言が耳にとまった。

「頭脳流失」の例である真鍋さ
んは、日本の教育制度改革につ

いて次のように答えた。

「日本では、科学者が意思決定
者に助言する方法、科学者と政
策決定者の間のチャンネルとい
うものについては、双方がコミュ
ニケーションを取っていないと
思います」

この言葉を聞いて、二つのこ
とを思い起こした。一つは、昨
年秋の菅義偉内閣発足直後の学
術会議会員選出問題。そし
て、もう一つは、昨年来の
コロナ感染対策における専
門家集団に対する政府の手
前勝手な悪用。

前者は、政府が科学者の
意見を正面から受け取るこ
とを拒否し、自らの耳に心
地よい意見を言う学者集団
へと学術会議のあり方を方
向転換しようという意図が

明白な事案だった。政権交代後
の岸田文雄首相もこの問題を再
検討する気配はない。新政権は、
政治とカネの問題などの疑惑も
含めて、安倍内閣・菅内閣の路
線への批判を引っ込めて方針踏
襲へと転換し、有権者を失望さ
せている。

コロナ対策に関する専門家会
議の科学的知見に対しても、政
府はご都合主義的な対応に終始
した。感染拡大の危険を警告す
る専門家の言葉を重視せず、昨
年のGOTO再開で失敗したに
もかわらず、今年夏には、オリ
パラ開催を強行した。「パンデ
ミックの所でやるのは普通では
ない」とする意見は無視された。
その結果、それまでにない大規
模な感染拡大を引き起こした。
医療体制の充実にも手を抜いた
結果、自宅療養という政治的責
任放棄となった。

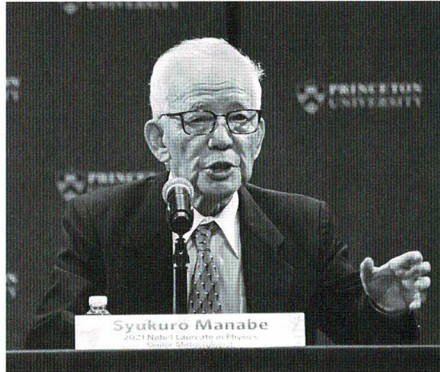
科学的知見に基づいて最終的
に判断するのは、政治の役割だ
が、初めから科学者の意見への

リスベクトがない政治家には、
都合の良い意見だけしか耳に入
らない。この態度を改めないと、
日本の将来は危うい。

選挙で話題となった「分配」
についても、その基本的な意味
を経済学者に確かめているのだ
ろうか。無理解のまま、票をか
き集めるためだけの「ばらまき」
を「分配」と言っているだけで
はないか。

本年度のノーベル経済学賞で
は、「自然実験」を用いた実証研
究が受賞した。それは、労働者
の最低賃金を引き上げたとき、
賃金負担が増した企業が雇用量
減らすはずだとされていた常識
が必ずしも正しくないと証明し
た。賃上げは企業業績・経済成
長に悪影響という財界の主張は
怪しいことになる。不都合な真
実に目をつぶる態度を、政治が
改めないと、日本では国際的に
評価される科学研究は生まれず、
頭脳流失が続くだろう。

(東京大名誉教授 武田 晴人)



ノーベル物理学賞の受賞が決まり、記者会見
する米プリンストン大上席研究員の真鍋淑郎
さん=10月5日、米ニュージャージー州